

風

かぜ カゼ

2001.9-17発行No.38

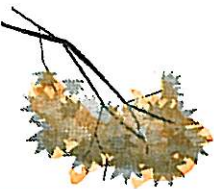
◇報恩講に思う

報恩講は真宗寺院門信徒が一番大事にしている伝統的な仏教行事と言えます。歴史を辿りますと、親鸞聖人のひ孫に当たる覚如上人が、ご聖人の三十三回忌を迎えるに当り（永仁二年1294年）この法要を報恩講として位置づけて執り行なわれたのが始まりです。それ以来ご本山だけでなく、全国の真宗寺院等では親鸞聖人のご恩徳を讃え、報恩の誓いを新たにすための法要（おとりこし）として、修行されて現在に至っています。（当山では11月10日午後1時から）

俗っぽく言いますと、今年の報恩講（年回忌とみて）七百三十八回忌となります。一般庶民の立場での仏事は五十回忌が一応の区切りであるだけに、毎年の法会として綿々と七百年以上の伝統を持つ報恩講に大きな意味とみ教えの確かさと出遇いの慶びがあると思います。有り難いことです。築地別院では11月11日（日）から16日（金）まで、ご本山では来年1月9日（水）から16日（水）まで夫々賑々しく執行されます。ご縁があればよろしくお参りください

◇今月の安樂寺伝道掲示板

悲しいことが
多いのは
自分のことしか
分からないからだ
石川 洋



〒105-0014

東京都港区芝1-12-18 安樂寺 03-3451-1509